

大使館便り

第 173 号 平成 29 年 8 月 8 日
在ポルトガル日本国大使館

1. 東博史大使からのメッセージ

盛夏の候、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

(1) ポルトガル博物館学協会より当館に対する国際協力貢献表彰受賞式への出席
(ア) 6月10日、私は、ソアレス・ドス・レイス国立博物館（ポルト）において開催されたポルトガル博物館学協会年次総会に出席し、同協会より、当国美術館・博物館等に対する国際協力での顕著な貢献が認められたとして、当館に対する表彰を受けスピーチしました。

(イ) ポルトガル博物館学協会（Associacao Portuguesa de Museologia）は、1965年に当国美術館・博物館の発展を促進するべく設立され、国内主要美術館・博物館や学芸員を会員とする組織です。同協会が毎年発表する最優秀博物館賞は、当国博物館の「オスカー」とも評されています（本年は、昨年開設されたリスボン所在の貨幣博物館が受賞）。これにあわせて、例年、当国の博物館・美術館に対する国際協力での顕著な貢献が認められた国（大使館）に対する表彰が行われています。

(ウ) 当館の受賞

(1) 当館は、昨年6月21日、森富山市長一行による当地ファルマシー博物館に対する展示品寄贈に取り組んだ経緯があります。ファルマシー博物館は、ポルトガルのみならず、大航海時代を含めて収集された、世界の調剤および薬局の歴史を紹介した珍しい博物館です。一昨年来の同博物館館長からの依頼を踏まえ、エボラ南蛮屏風下張り文書の「松任町文書」の関係者として、昨年2月にポルトガルを親善訪問され、ファルマシー博物館を視察された「クスリのアオキ」の青木会長の御紹介で、富山の（株）廣貫堂の協力を仰ぎ、同日、森市長の立ち会いの下、廣貫堂よりファルマシー博物館に対して、柳行李、薬箱、そろばん、懸場帳、石版、薬パッケージ等の「富山の薬売り」を紹介する歴史的価値の高い展示品が寄贈されました。

(2) また、これまでも「東大使メッセージ」でも御紹介してきました通り、現在、ソアレス・ドス・レイス国立博物館（ポルト）の南蛮屏風下張り文書修復事業を支援しているところです。

(3) 今般、上記2件の取り組みにつき、ポルトガルにおける美術館・博物館の発展に大きな貢献が認められたとして、当館に対する表彰が決定されました。なお、本年、本件表彰を受けたのは「日本」のみでした。

(4) 私は、約200名の当国主要美術館・博物館館長ほかの出席する受賞式典において、概要以下のとおり挨拶を行いました。

本件受賞は大変に嬉しく名誉である。ファルマシー博物館に対しては、「富山の薬売り」という我が国独自の文化の展示に協力頂き深く感謝している。今後、ソアレス・ドス・レイス国立博物館の南蛮屏風下張り文書の修復等を通じて、引き続き両国の相互理解および関係緊密化に向けて、大使館としても、これら事業に対する協力を進めていきたいと考えている。



表彰状



東大使挨拶



ネト・ポルトガル博物館学協会理事長への挨拶

(2) 長崎日本ポルトガル協会一行のポルトガル訪問

(ア) 7月3日、私は、長崎市の姉妹都市であるポルトの市庁舎を訪問し、長崎日本ポルトガル協会一行親善訪問団の歓迎式典に出席しました。

同式典では リカルド・ヴァレンテ副市長から歓迎の辞が述べられ、宮脇雅俊会長から今次訪問の意義や来年の予定等について挨拶され、私からも歓迎の辞を述べました。

特に、宮脇雅俊会長からは、ペトロガン・グランデの森林火災に対するお見舞いに言及された上で、「長崎日本ポルトガル協会は 1968 年に駐長崎ポルトガル名誉領事館の設置に合わせ設立され、来年設立50周年を迎える。その間 10 回ポルト市を訪れており、今回が 11 回目の訪問である。長崎港がポルトガル人により開港されて 400 年に当たる 1970 年に長崎で、日本の皇室のご臨席を仰ぎ、開港 400 年記念祭が開催され、その際には世界的大スターアマリア・ロドリゲスさんにも来日いただいた。翌1971年、開港 400 年祭の答礼を兼ねて協会が発足して初めてポルト市を訪問し、そして 1978 年に姉妹都市提携に至り、来年は、姉妹都市締結 40 周年を迎える。今年 10 月には長崎を代表するお祭り「くんち」で、ポルトガル船を表現する『南蛮船』が 7 年ぶりに神様へ奉納する出し物として披露される予定であり、その際駐日ポルトガル大使を長崎にお招きして『南蛮船』を観ていただき、ともに協会設立 50 周年をお祝いする予定である。このように、長崎では、お祭りや生活の中で 400 年以上にわたるポルトガルとの繋がりを守り続けており、長崎市とポルト市との姉妹都市交流は日ポ両国の

親善交流において重要な位置づけにあると考えている。今回の親善訪問を機に、微力ながら姉妹都市交流事業に協力しポ日両国の発展に寄与いたしたいと思っている」旨挨拶されました。

(イ) 翌7月4日、リスボンにおいて、私は、宮脇雅俊会長とともに、リスボン市庁舎のカストロ市国際担当政務官、外務省のオリベイラ国際担当外務副大臣、国会のティアゴ・ポルトガル・日本友好議員連盟副会長等を表敬しました。

また、親善訪問団一行は、ポルトガル・日本友好協会メンバー等と交流しました。

各種表敬、交流においては、今次訪問の意義、今後の交流の在り方等について意見交換し、これまでの姉妹都市間の人的交流、文化交流に加えて、2020年東京オリンピックにむけてのスポーツ交流の他、今後は、観光促進をはじめとして、貿易投資の促進につながるような経済交流の可能性についても検討していくこととなりました。

(ウ) 長崎日本ポルトガル協会設立50周年を祝する今回の訪問は、明年が、長崎市・ポルト市間の姉妹都市提携40周年にあたることから、長崎市長のポルト訪問等も検討されており、明年以降にもつながる両市・両国間の交流強化の良い機会になりました。

(3) 大分県、大分市職員のポルトガル訪問

7月13日、私は、大分県、大分市職員とともに、大分市の姉妹都市であるアヴェイロ市長を表敬し、今後の両市間の姉妹都市交流について情報・意見交換を行いました。

特に来年2018年は大分市とアヴェイロ市の姉妹都市提携40周年を迎えることから同年には、大分市長、大分のサッカーチームのアヴェイロ派遣、アヴェイロ市長の大分訪問も予定されているとのことです。私からは、両市間の姉妹都市交流について、これまでの人的交流、文化交流に加えて、2020年東京オリンピックにむけてのスポーツ交流の他、今後は、観光交流をはじめ両国産品の貿易や新規投資の促進等経済面での交流が重要であると考えている旨述べたところ、両市から賛同が得られました。

(4) JALチャーター直行便のリスボン空港到着

7月15日、私は、日本から初めてとなるチャーター直行便（関空発）が、リスボン・ポルトラ空港に到着する機会に、ペドロ・マルケス・ポルトガル企画・インフラ大臣とともに同空港に赴き、同便の搭乗客を歓迎しました。

(ア) その際、私からペドロ・マルケス企画・インフラ大臣に対し、「日本から初めてとなる（チャーター）直行便がリスボンに到着することは感慨深い。特に、マルケス大臣は、2014年にポルトガル・日本友好議員連盟の副会長をされていた時代から直行便の必要性を主張され、昨年7月に企画インフラ大臣として訪日された際にも、国土交通省や日本の航空会社と直行便の就航について話し合われたと承知しており、今回の（チャーター）直行便の就航によって、将来の定期直行便につながることを期待したい」旨述べたところ、同大臣は、「全く同感である。今次チャーター便は、本年夏の期間にJTBの企画により運航されているものであり、日本航空、全日空が運航すると承知している。昨年7月に訪日した際、全日空が、2020年東京オリンピックまでに南欧路線を新たに開設することを示唆しており、この実現を期待したい」とのお話がありました。また、「直行便の就航のためには、双方向の観光客の増加、特にビジネス客の増加が不可欠で

あり、近年の両国間の観光客の急増は良い傾向であるが、最近の丸紅のリスボン事務所の開設をはじめ日本企業のポルトガルへの進出が見られるところ、これらの動きを更に支援していく必要がある」ことについて意見が一致しました。

(イ) この直行便は、(本年予定されているチャーター) 4 便のうちの 1 便であり、日本の最大手旅行会社である J T B の企画により運航され、日本航空と全日空による初めてのリスボン空港及びポルト空港への商用運航となります。

(ウ)(ポルトガルの空港運営会社である) A N A (Aeroportos de Portugal) は、「このチャーター便の運航は、単発且つ短期間のものであるが、(ポルトガルにとって) 重要な市場である日本による(直行定期便の就航に向けた) 実験的な性格を有するという意味で重要性を持つ。このチャーター便の成功は、今後新たな直行(定期) 便の就航を検討する際の梃子になるであろう。また、リスボン空港、関西国際空港(をはじめとする世界の空港) を管理・運営するフランス企業ヴァンシ・エアポート社(Vinci Airports S.A.S.) と J T B は、日本からポルトガルへのインバウンドだけでなく、ポルトガルから日本へのアウトバウンドも追求しつつ、2 0 1 8 年夏までにこのチャーター便の運航を拡大させることを目指し、既に作業を行っている」との声明を発表しました。

(エ) なお、同便搭乗客歓迎の様態については、当地 SIC テレビのニュースで放映されたほか、ジョルナル・エコノミコ(オンライン版)、オブセルヴァドール(オンラインニュースサイト) 等で報道されました。



乗客を歓迎



マルケス大臣と東大使



J A L 乗務員との写真

(5) 綿貫宏介氏への公館長表彰

7 月 1 9 日、大使公邸において、アーティストの綿貫宏介氏に対し、公館長表彰させていただきました。

(ア) 私は表彰式の挨拶で、概要次のとおり述べました。

(i) 1 9 5 6 年から 1 0 年に渡りポルトガルで生活されていた間に綿貫宏介先生が残された絵画作品は当地で高く評価され、多くの作品がグルベンキアン美術館をはじめとして、各地の美術館に所蔵されています。本年は、1 9 5 7 年の最初の個展開催から 6 0 周年にあたり、そのタイミングで綿貫先生をポルトガルにお迎えして、展覧会が再び実施されることを喜ばしく思います。

(ii) 綿貫氏の目を通して描かれたポルトガルの風景は当地の人々に驚きと感動を持って受け入れられ、特に 1 9 5 7 年のリスボンでの個展の盛況ぶりは当時放送が始まったばかりのテレビでも大きく取り上げられたと伺っています。日本に帰国されてからはポルトガルアートの趣きや欧州のモダニズムを取り入れたパッケージデザイン等の意匠で日本にも根強いファンがおられます。両国の人々の友情・絆をアートをもって結んでこられたその功績を称え、本日ここに表彰致しま

す。

(イ) また、綿貫氏とは1960年代からの旧友で、今回リスボン市内等での展覧会の実現に尽力されたペドロ・カナヴァーロ・カナヴァーロ財団総裁は次のとおり挨拶しました。

旧い友人である綿貫氏とここポルトガルで再会でき、明日よりその作品を展示できることを嬉しく思います。我々ポルトガル人は、彼に描かれた作品を通じて改めて自分達の住む町の美しさを再発見できたのであり、ポルトガルの偉大な友人である綿貫氏に改めて感謝の意を表します。

(ウ) 同表彰式には、本邦より綿貫氏の親族、事務所関係者、綿貫氏のデザインを商品に使用している企業関係者、また当地で同氏の展覧会を企画・運営しているペドロ・カナヴァーロ総裁、クリスティーナ・カステルブランコ イネス・デ・カストロ財団理事の他、綿貫氏と1950～60年代に親交のあった美術関係者等も参加し、出席しました。

(エ) なお、今回予定されている綿貫宏介氏のリスボン市内の個展については以下のとおりですが、以下会場での展示の後、コインブラ市及び同氏とゆかりの深いマトジーニョス市でも展示が行われる予定です。詳細は、この「大使館便り」の3.広報文化関係を参照してください。

綿貫宏介展 “Agora Mesmo”

(ポルトガル国内所蔵の60作品を展示)

期日：2017年7月20日～8月31日

会場：国立美術協会 (Sociedade Nacional de Belas Artes) (リスボン)

(オ) 綿貫宏介先生は、矍鑠としておられて、1950～60年代に親交のあった美術関係者とポルトガル語で交流されているお姿を見て、今もポルトガルの偉大な友人として、ポルトガル人から慕われる巨匠であることを実感しました。また、絵画については全くの独学とのことで、そのユニークな作風に強い感銘を受けました。その作品には、日本人の感性とポルトガルの美・雰囲気といったものが見事に融合しており、1956年にポルトガルに来られ、10年に及び先生が御自身の身近な生活の場で出会ったポルトガルの素朴な街並みを精力的に描かれましたが、カナヴァーロ財団総裁が「先生の目線を通して描かれたポルトガルが現地の方々に新鮮な驚きと感動を持って受け止められた」と述べられたことが実感できます。また、10年に及ぶこちらでの活動が大きな足跡を残すものであったことを物語っています。今後も、綿貫宏介先生を顕彰して行きたく存じます。



カナヴァーロ氏、綿貫氏、東大使



表彰状授与

(6) 「三菱ふそう」の電気トラック「eCanter」生産開始式へのソウザ大統領出席

7月27日、私は、三菱ふそうトラック・ヨーロッパ社の当国中部アブランテス市・トラマガル工場における電気トラック「eCanter」の生産開始式に出席しました。

三菱ふそうトラック・バス社(本社:神奈川県川崎市)は、電気トラックのパイオニアとして、新世代車となる電気トラック「eCanter」を川崎工場とともにトラマガル工場でも生産を開始することになり、ポルトガルにとってもランドマーク的な重要なプロジェクトになる由。

同生産開始式には、ソウザ大統領、カブラル経済大臣、アナ・テレーザ・レマン経済省産業担当副大臣、アルブケルケ・アブランテス市長等が出席しました。

工場見学に際して、私からソウザ大統領に御挨拶したところ、同大統領は、「おめでとうございます。ポルトガル人と日本人が一緒になって電気トラックの生産に携わっている姿を見ることができて大変嬉しい」と述べておられました。

また、生産開始式典において、同大統領は、概略次のとおり挨拶されました。

(ア) ポルトガル、EU 諸国、世界の国々が気候変動問題に直面している中、クリーンエネルギーはこの問題を解決する1つの手段であり、これを用いる技術の開発は大きな挑戦である。三菱ふそう・トラック社は、男性、女性、ポルトガル人、日本人である多くの従業員が共に大きな挑戦に立ち向かい、新しい「eCanter」を作り上げたことは、賞賛に値することである。

(イ) ポルトガルが経済危機に陥っていたこの4～5年間、ポルトガルで活動する企業は困難に直面してきたが、この経済危機から脱却し、更なる投資、輸出が増加している中で、本日トラマガル工場を訪問し、ポルトガルの国、市、人々、経済、社会に対する新たな希望を見ることができた。三菱ふそう・トラック社が、ポルトガルで「eCanter」の生産を開始することは、ポルトガルに活力を与えるであろう。

(ウ) (日本大使も同意されると思うが)、ポルトガルにおける「eCanter」の生産開始は、何世紀にも亘るポルトガルと日本の友好な二国間関係の象徴であり、ポルトガルの大統領として、本日は非常に喜ばしい日であり、ポルトガル人の一人としてお礼を申し上げたい。

このように、ソウザ大統領は、三菱ふそうトラック・バス社が、川崎工場とトラマガル工場でも電気トラックの生産を始めたことについて、対ポルトガル投資及び環境問題対策としての重要性を認識し、「何世紀にも亘るポルトガルと日本の友好な二国間関係の象徴」として位置付けて頂きました。また、「ポルトガル人と日本人が一緒になって電気トラックの生産に携わっている姿を見ることができて大変嬉しい」とも言って頂き、今後も両国の企業間で、最新のテクノロジーの分野での協力・協働を支援して参りたく存じます。



大統領等との写真



大統領とふそう職員写真

以上のとおり、6月、7月にも経済、文化、姉妹都市交流等広範な分野で日・ポ二国間関係強化の動きがありました。特に、日本から初めてとなるチャーター直行便のリスボン空港到着は未来の定期直行便就航に向けての第一歩と位置付けることもできます。また、三菱ふそうトラマガル工場での電気トラック「eCanter」の生産開始については、上記のとおり、ソウザ大統領から、「対ポルトガル投資及び環境問題対策」として、かつ「ポルトガルと日本の友好な二国間関係の象徴」として高く評価されました。更に、6月の「日本祭り」に際しましては、昨年にして多くの方に御来訪いただきました。御支援・御協力頂きました皆様方に心より感謝申し上げます。

8月に入り、夏季休暇中の方も多いかと存じますが、8月30日-9月2日までリスボンで開催予定の「第15回 EAJS 日本研究国際会議」に世界中から900名もの日本研究学者がリスボンに参集する機会に、ポルトガルで現在高まりつつある日本への関心、熱い視線を日本文化への深い理解、両国の友好関係の強化につなげていきたいと考えておりますので、引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

2. 政治・経済関係

(1) ポルトガル政府、副大臣ポストを再編

7月13日、コスタ政権は一部の副大臣ポストの交替を発表しました。大統領府は同日、同人事案を承認し、14日、新副大臣8人の就任式が大統領公邸で行われました。

同人事は、ポルトガルの大手総合エネルギー会社「Galp」の接待で、客年7月のサッカー欧州選手権（ユーロ2016）の観戦旅行に参加して批判が出ていた、コスタ・オリヴェイラ外務省国際化担当副大臣、ロッシェ・アンドラーデ財務省税務担当副大臣、及び、ヴァスコンセロス経済省産業担当副大臣の3人が9日付で辞任を表明していたことに加え、多数の死傷者を出した6月の大規模森林火災やタンコス陸軍基地の武器大量盗難事件を受け、政府に対する野党等の責任追及が高まっていたことを背景にしたものと見られています。

一方、森林火災及び武器盗難事件を背景に、野党を中心に辞任要求が出されていた、ウルバーノ・デ・ソウザ内務大臣及びロペス国防大臣を含め、閣僚ポストはいずれも留任となりました。

人事概要は以下の通りです。

【外務省】①〈欧州問題担当副大臣〉（前）マルガリーダ・マルケス→（新）アナ・パウラ・ザカリアス（駐コロンビアEU大使）、②〈国際化担当副大臣〉（前）ジョルジ・コスタ・オリヴェイラ→（新）エウリコ・ブリリャンテ・ディアス（社会党議員・リスボン大学付属経営大学院准教授）

【閣議・行政刷新省】③〈閣議担当副大臣〉（前）ミゲル・プラタ・ロッケ→（新）ティアゴ・アントゥネス（リスボン大学法学部准教授）

【財務省】④〈税務担当副大臣〉（前）フェルナンド・ロッシェ・アンドラーデ→（新）アントニオ・メンドンサ・メンデス（弁護士）、⑤〈行政・公的雇用担当副大臣〉（前）カロリーナ・フェーラ→（新）マリア・デ・ファティマ・フォンセッカ（リスボン市人事局長）

【経済省】⑥〈産業担当副大臣〉（前）ジョアン・ヴァスコンセロス→（新）アナ・テレザ・レマン（ポルト大学経済学部准教授）

【環境省】⑦〈住宅担当副大臣：新設ポスト〉（新）アナ・ピーニョ（民間不動産投資ファンド経営評議会委員）

【農業・森林・地方開発省】⑧〈森林・地方開発担当副大臣〉（前）アマンディオ・トーレス（新）ミゲル・ジョアン・デ・フレイタス（アルガルヴェ大学教員）

〈写真：ポルトガル大統領府HPより転載〉



（２）ソウザ大統領、メキシコを公式訪問

７月１６～１８日、ソウザ大統領はメキシコを公式訪問しました。カルデイラ・カブラル経済大臣、リベイロ外務・国際協力担当副大臣、カストロ・エンリケス・ポルトガル投資貿易振興庁（AICEP）長官、国会議員４名と約４０の大手企業代表が同行し、経済関係の強化に重点が置かれました。

１７日午後、ソウザ大統領はペニャ・ニエト大統領と大統領官邸で会談後、共同記者会見を開き、「平和、人権保護、社会正義、経済発展のみならず、人（の移動）と通商の自由、不当な保護主義に対する拒絶、人的・経済的な障壁、気候変動にかかる懸念などの普遍的な基本原則において、我々は同じ考えを有している」などと述べました。

ペニャ・ニエト大統領は「１８年振りとなる今般のポルトガル大統領によるメキシコ訪問は、両国関係を新たにする上で大きな弾み。両国は自由貿易の促進、気候変動対策及び多国間主義などの世界的な課題において協調している」などと語りました。

ソウザ大統領は翌１８日、両国の企業家約２００名が参加した「メキシコとポルトガルー共通の旅」と題する企業家セミナーで、「ポルトガルは今後も成長を続ける。ポルトガルの金融システムと経済成長を妨げるような政治的な要因は一切ない」などと演説しました。

【写真】握手するソウザ大統領（左）とペニャ・ニエト大統領（ポルトガル大統領府HPより転載）



（３）長期国債の発行

７月１２日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、１０年物及び２８年物長期国債の入札を実施し、総額１０億ユーロを調達しました。落札平均利回りは１０年物が３．０８５％、２８年物が３．９７７％でした。

３．広報・文化関係

（イベント）

（１）綿貫宏介作品展

パッソス・カナヴァロ財団、イネス・デ・カストロ財団及びマトジーニョス市の共催により、下記の通り綿貫宏介巡回作品展が開催されています。独特なデザインで知られる綿貫作品の世界をど

うぞお楽しみ下さい。

(ア) 日時：7月20日(木)～8月31日(木)

会場：Sociedade Nacional de Belas Artes (ポルトガル美術協会)

住所：R. Barata Salgueiro 36, 1250-042 Lisboa

お問い合わせ：geral@snba.pt

URL：<http://www.snba.pt/>

(イ) 日時：9月9日(土)～10月1日(日)

会場：Museu Nacional de Machado de Castro

(マシャード・デ・カストロ国立美術館)

住所：Largo Dr. José Rodrigues, 3000-236 Coimbra

お問い合わせ：geral@mnmc.dgpc.pt

URL：<http://www.museumachadocastro.pt>

(ウ) 日時：10月14日(土)～12月17日(日)

会場：Museu da Quinta de Santiago (キンタ・デ・サンティアゴ美術館)

住所：Rua de Vila Franca, 134, 4450-802 Leça da Palmeira (Matosinhos)

お問い合わせ：museuqsantiago@cm-matosinhos.pt

URL：<http://www.cm-matosinhos.pt/pages/454>

(2) 伏原健之監督作品「人生フルーツ」の上映

愛知県に住む老夫婦の日常を描いた伏原健之監督によるドキュメンタリー「人生フルーツ」が以下のとおり上映されます。また、上映後、伏原監督と本作品のナレーターで女優の樹木希林によるトークセッションも行なわれます。

日時：8月29日(火) 18:30～20:00 (上映)、

20:00～20:30 (トークショー)

会場：オリエン特博物館

住所：Av. Brasília, Doca de Alcântara (Norte), 1350-352, Lisboa

お問い合わせ：info@foriente.pt

URL：<http://www.museudoorient.pt/2960/life-is-fruity.htm>



(3) トーレス・ヴェドラス市「Novas Invasões」芸術祭における日本関連イベント

トーレス・ヴェドラス市主催による芸術祭「Novas Invasões」において、今年は日本をテーマ国として、伝統文化、音楽、食、映画上映等様々な日本文化関連イベントが開催されます。各イベ

ント詳細は、下記宛てお問い合わせいただくか、URL にてご確認下さい。



日時：8月31日（木）～9月3日（日）

会場：トーレス・ヴェドラス市内各所

お問い合わせ：geral@cm-tvedras.pt

URL：<http://www.cm-tvedras.pt/agenda/programa/26/>

同芸術祭においては、下記の日本関連イベントが催されます。いずれも入場は無料です。

（ア）田中泯ダンスパフォーマンス

世界的に活躍する舞踏家田中泯によるダンスパフォーマンスが、下記のとおり行なわれます。

日時：9月1日（金）23：00～24：00、

9月2日（土）21：00～22：00

会場：同芸術祭会場内で実施。詳細は下記宛てお問い合わせ下さい。

お問い合わせ：geral@cm-tvedras.pt

URL：<http://www.cm-tvedras.pt/agenda/programa/26/>



（イ）国際交流基金日本映画祭

国際交流基金の協力により、下記日本映画が上映されます。（いずれも入場無料）

「滝を見にいく」（沖田修一監督）

日時：8月31日 21：30～23：00、

9月2日 23:00～24:30

会場：Teatro-Cine de Torres Vedras - Av. Ten. Valadim 19, Torres Vedras

「春を背負って」(木村大作監督)

日時：9月1日 21:30～23:30、

9月2日 20:30～22:30

会場：Teatro-Cine de Torres Vedras - Av. Ten. Valadim 19, Torres Vedras

「ジヌよさらば～かむろば村へ～」(松尾スズキ監督)

日時：8月31日 18:00～20:00、

9月2日 15:00～17:00

会場：Teatro-Cine de Torres Vedras - Av. Ten. Valadim 19, Torres Vedras

「WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～」(矢口史靖監督)

日時：9月1日 18:00～20:00、

9月2日 18:00～20:00

会場：Teatro-Cine de Torres Vedras - Av. Ten. Valadim 19, Torres Vedras



「滝を見にいく」



「春を背負って」



「ジヌよさらば～かむろば村へ～」



「WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～」

ウ) 檀一雄ドキュメンタリー映画「むかし男ありけり」の上映

“最後の無頼派”と呼ばれ、晩年ポルトガルのサンタ・クルス近郊に滞在した作家檀一雄の足跡を高倉健が追ったドキュメンタリー映画「むかし男ありけり」(1984)が同芸術祭で上映されます。日時・会場等詳細が決まり次第別途大使館便りにてお知らせ致します。

(4) 石井春アズレージョ個展

ポルトガルで制作活動を行うアズレージョ作家石井春による個展が、以下のとおり開催されます。

日時：9月2日(土)～12月末迄

会場：国立アズレージョ博物館

(5) ルイーザ・アルパリャオン写真展 ―鏡の陰謀―

日本国大使館主催、レイリア市協力により、建築家ルイーザ・アルパリャオンによる写真展が、下記のとおり開催されます。日本の街中いたるところに見られるカーブミラー等の凸面鏡を通して見た様々な日本の風景を写し出します。

日時：9月5日(火)～10月15日(日) 9:30～16:30

会場：Museu da Imagem em Movimento

住所：Largo de São Pedro, 8000-145, Leiria

お問い合わせ：cmleiria@cm-leiria.pt

URL：<http://www.cm-leiria.pt/pages/264>

(お知らせ)

(6) 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主(共)催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、cultural@lb.mofa.go.jpまでご連絡下さい。

4. 領事関係

(1) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、**ポルトガル国内での転居**、**日本への帰国**、**他国への転出等**、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

（２）在外選挙人名簿登録

外国に在住する日本人が衆議院議員選挙、参議院議員選挙をするためには、在外選挙人登録が必要です。１８歳以上で日本国籍を持っていること、ポルトガルに３か月以上住んでいること、日本で転出届を市町村役場に提出済であることが必要です。なお、３か月未満のポルトガル在住でも申請できますが、居住期間の３か月经過時に改めて所在を確認した上で登録申請先の国内選挙管理委員会に送付することとなりますのでご注意ください。登録申請のためには旅券を持参ください。

（３）「たびレジ」登録

在留邦人の皆様が、ポルトガル以外に旅行される場合には「たびレジ」の登録をお願いします。「たびレジ」に登録しますと、現地の大使館からの安全情報をスマートフォン等で受信することが出来ます。登録はこちら。<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

（４）当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてに E-mail にてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：consular@lb.mofa.go.jp